

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社 愛の家グループホーム岐阜正法寺
（ユニット名）	（うぐいす）
所在地 （県・市町村名）	岐阜県岐阜市正法寺町9番地
記入者名 （管理者）	安藤 真紀
記入日	平成20年1月18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念として、様々な機会を通じて地域との触れ合いを大切にするという理念を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を書いたものをユニット内に掲げ、理念を心がけるように取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	印刷物や名刺の裏などに理念を掲げ、機会がある時に渡している。面会に来られた家族様にお話をさせていただいたり、少しでも理解していただけるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に挨拶をしたり、話をしたりしている。気軽に立ち寄っていただけるよう心がけている。	○ 気軽に立ち寄ってもらえるような場や機会の提供をしたり、ホームの新聞をつくり、近隣に配布し、知ってもらうことによって日常的なつきあいができるように取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の飲食店、学校の文化祭、地域のお祭りなど地域での買い物などに出かけ、交流に努めている。また、学校の合唱やボランティアがホームに来て、活動してもらい交流している。	○ 自治会の入会や、地域の活動、地域の催し物などの参加に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	どのような支援方法があるのか検討し話し合いの場を持つてはいるが具体的な取り組みは出来ていない。	○	認知症や、高齢者の暮らしに役立つような記事の載っているホーム新聞をつくり配布したり、地域の高齢者の暮らしに約立つことがないかユニット内で話し合う機会を作っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価や外部評価を教訓に一部改善を行ったが、ほとんどが形式的なもので終わってしまい、評価を活かして具体的な改善が出来ていない。	○	評価の一つ一つの改善を具体的に取り入れ、計画的に実践していくように話し合い、実践をし、日ごろから自己評価をするようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、利用者の活動やサービスの様子、評価項目の一部を印刷物で報告、話し合いの場を設けている。	○	、話し合いの場としては、話やすい・質問しやすいように工夫した受け答えができるようになりたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と行き来する機会をつくる取り組みはできていない。	○	市町村担当者と行き来する機会を作る話し合いをし、取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について、学ぶ機会を持っていない。後見人制度については、要望があり、支援している事例があるが、管理者や一部スタッフしか認知していない。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について、学ぶ機会として、勉強会を持ち、取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを常時、閲覧できるようになっている。また、機会があるときには、スタッフに話しを行い、虐待防止心がけている。またスタッフ同士の声の掛け合いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を用い、口頭でも重ねて説明、質疑応答をし、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外出時や居室などでお話を伺っている。意見をスタッフ全員で共有し話し合いを行っている。	○	利用者に話をすることは日常的にはあるが、ユニット内にも意見箱の設置やアンケートを行うなど具体的な取り組みをしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々に近況報告書の発行、電話でのお知らせ、金銭管理ノートの写しの発行、面会時に話を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情窓口を設け、取り組んでいる。苦情や意見を言いやすい環境を作り、ご家族様の意見を大切にしている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改めて運営に関する意見を聞く機会は設けていないが、会議等で出た職員の意見を参考にしている。	○	会議に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事、外出の予定にあわせて勤務の調整を行っている。また緊急時においても協力をし適切な対応が行えるよう努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	変わる場合は、利用者へのダメージを防ぐように配慮した声かけ、観察をおこなっている。また他のユニットとの交流を行い、全スタッフがホーム全体を把握できるよう努めていると同時に利用者様も全スタッフを把握していただけるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を受ける機会を設けている。また、不定期だが勉強会を設けていたり、会議時に話したりする。また、資料作りなど通して、トレーニングを進めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流の機会はなかなか設けることは出来ていないが、法人内の研修等で他のホームの職員との交流し意見交換を行っている。研修の後に報告する機会を設け発表している。	○	ネットワーク作りや勉強会の主催、訪問など、取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員一人ひとりと出来る限り話し、小さな変化にも気づけるよう心かけている。また話しやすい環境づくりに努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々にケアの資料作り、ケアに対するの自分の意見を記入できる用紙を活用し、向上心を持って働けるように努めている。	○	研修や個々が力を出せる機会を設けていきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用にいたるまでに、話し合いをし、アセスメントをする機会を設けている。専門用語はなるべく使用せず、解りやすく説明を行うよう心がけている。	○	時間や話し合う機会を多くもてるように取り組んでいきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用される方の普段の様子や家族様からの要望をお聞きしている。何度か話し合いを行い、納得していただけるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極められるように話し合っている。ご本人の状況、家族様の状況をしっかり把握し、どのようなサービス提供が適しているか相談を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等と話し合いながら工夫している。じっくり時間をかけその方のペースで馴染んでいただけるよう努めている。コミュニケーションを大切にしどのようなことで不安を感じられるのかを把握しケアを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活をする感覚で接し、喜怒哀楽を共にする関係性作りに努めている。その方の立場になって物事を考えるよう心がけている。	○	関係性の振り返りをする機会をもち、より一層のよりよい関係づくりに取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族等と話し合いながら、共に支えていく関係性作りに努めている。ご本人の様子等を報告させていただき、家族様の要望、またご協力していただきたいこととお話し、よい関係が気づけるよう努めている。	○	家族との話し合いをよりすすめ、家族も自分たちが支えているという意識ができる関係作りに努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族様より、話を聞き、より良い関係が出来るように必要時には、仲介役・代弁者となりつなげるように支援している。	○	支援しているが、より決め細やかな支援ができるように努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠慮をされご本人から希望されることが少ないた馴染みの場所へ出かけることは少ない。またご本人の状態により難しい状況もある。家族様との相談し支援に努めていきたい。	○	希望がある時には出来る限りその日の内に対応するよう努めていきたい。その方の入居前の生活リズムや交友関係を把握しこちらから出かけられるよう働きかけたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の係わり合いがうまくいくように、必要時には仲介したり、孤立しないような機会の提供に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了後にも、関わりを必要とする利用者や家族様には、関係を断ち切らない付き合いを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を、話し・様子から把握し、支援に努めている。その方の立場になりケアのケアの提供を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握を日常会話や様子から拾い出し、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日課、心身状態、残存能力の把握に努めている。その日の状況に応じた対応を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、医師などより話を聞き、意見を取り入れている。職員間の情報交換を行い介護計画に反映させ計画を立てている。	○	より、意見がひきだせるような工夫ができるように取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、ご本人の様子、サービス提供の適正化を検討し、見直しが必要な場合はご本人、家族様の要望や意思を確認し現状に応じた介護計画書を作成している。	○	安定による継続も多いが、常に現状に即した新たな計画やアイデアを掘り起こせる工夫をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録のほかにも、モニタリング用紙を活用し、意識、情報の共有をしながら実践や計画の見直しをしている。	○	介護記録に計画が反映できる工夫に取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	すべての要望に応じられるわけではないが、出来る限り応じられるよう心がけている。	○	どこまでホーム側が出来るのかを把握し、ご本人、家族様の要望にこたえられるよう取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性があった場合、支援する準備として、計画に地域資源を記入する欄を設けている。ボランティアの方にも定期的に入っていただき交流を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用のための支援を視野にいれてはいるが、支援実行にまではいたっていない。	○	どのようなサービスが受けられるのか、どのようなサービスがあるのか地域のケアマネジャーと話し合える機会を作っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働についてどのように進めていくか検討中で定期的な話し合いはもてていない	○	地域包括支援センターとの関わりを密に取れるよう情報交換、勉強会などを開催し、権利擁護等のケアマネジメントについて協働していけるよう取り組んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族、医師との連携をし、適切な医療を受けられるように支援している。医師と密に連携をとり体調管理、相談を行い必要に応じて往診をしていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが、グループホームの往診医を多くしている医師が往診を担当しており、適宜相談をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間相談をすることが出来るようになっている。定期的にホームへ訪問していただき、健康管理や医療活用支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者との情報交換や相談に、入院時は面会に出向きコミュニケーションを図り、不安の軽減に努めている。入院後も医師、看護師と連携をもち受け入れ態勢を整えている。。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、一部の家族や本人とは話し合いはできている。	○	早期に全家族や本人の意向を把握し、医師・全員での方針を共有する取り組みをしたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	見極め、支援の取り組みをし始めている。ホームで出来ること、出来ないことを検討しその方にとって一番よい体制を整えるよう心がけている。医師とも連携し支援に取り組んでいる。	○	重度や終末期について常日頃からの全職員・本人・家族・医師の考えの把握や問題の取り組みについて、検討や準備、方法、勉強に取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人、家族様と十分な話し合いを持ち、慎重に行っている。状況変化に伴う精神的な負担を視野に入れ取り組みよう心がけてる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	本人の意思に沿って支援しているが、いつものパターンと決め付けることなく、常に希望を聞く姿勢をもち、取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		おやつはホームで提供しているもの意外に、ご本人の好きなものを購入していただき管理できる方についてはお渡しをしている。お酒、タバコに関しては医師の指示をあおぎ体調を考慮し出来る範囲で提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツ、パットが本当にその方に必要なのか、その方に適したものを使用しているのかをカンファレンス等で話し合い検討している。排泄の失敗を事前に防ぐために排泄パターンを把握し、声掛けにて排泄行為を促すこともしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その方の希望に応じて提供している。入浴される時間もホーム側で決めるのではなく、その方のペースに合わせ入浴したいときに入っていただくよう努めている。	○	入浴を拒まれる方に関して、どのような対応をすれば快く入浴していただけるが、全職員が把握し、偏りのないケアの提供に努めたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不安なことがあり眠れない方に対して、ゆっくり話を聞き安心して休んでいただけるよう声掛けを行っている。また日中、行事活動に参加していただき体を動かすことで安眠を促すことも支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援を意識している。、機会を設けているが十分な支援にはいたっていない。	○	複数で楽しんだり、共同での気晴らしの提供、個人の楽しみを一部できているが、現状で満足せず、十分な支援を目指し、取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方にはお金を持っていたりしている。日常の買い物や薬の代金の支払いも行っている方もみえる。管理が難しい方については、買い物に出かけて際、必要な金額をお渡しし、レジにてご本人に支払いをしていただくこともある。	○	買い物の支援なども行っているが、お金を所持したり、使える機会の提供を増やすように取り組んでいきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	複数で出かけるのではなく、可能な限り一対一で外出を行うよう努めている。買い物や散歩、その方が希望されることに応じられるよう努めている。	○	散歩、買い物等、要望・選択をしてもらっているが、戸外にいける機会を増やすように取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	要望時は支援している。1時間から2時間ほどかけ外出をし気分転換していただけるよう努めている。	○	あまり要望されないためこちらからの提供が多いが、一人ひとり行ってみたい普段は行けないところの要望を聞く機会を増やし、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に応じて支援している。電話はダイヤルをこちらで回し話をしていただいている。難聴の方には電話の音量の設定にも気をつけ、ゆっくり話が出来るよう努めている。	○	一部家族関係からできない人もいるが、家族との仲介に努力し、やりとりができるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるように、またきていただけるような挨拶をしたり、居心地良く過ごせるような挨拶をするようにしている。	○	居心地良く過ごせる工夫の話し合いをもち、環境作りをしていく取り組みをしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを参考に会議等で話をしている。	○	身体拘束をしないケアをしているが、勉強会や会議で深い理解をしていくように取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、フロアーでは入り口の鍵は開放してあり自由に出入りできるようになっている。各フロアーも自由に行き来できるようにしており、他のフロアーの方との交流の支援も行っている。	○	鍵をかけないケアをしているが、鍵をかけることの弊害の理解については、勉強会・会議で話をし、より深い理解ができるように取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	○	安全に配慮しているが、申し送り時に職員同士で確認しあい、職員の意識をたかめるように、取り組んでいきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人によっては、刃物、薬等を持っている人もいるが、一人ひとりの状態に応じて把握程度、こちらでの預かりなど、個別に対応している。	○	個人に対応しているが、個人の状態の変化に留意し、対応も変化する取り組みをしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行時のふらつきの状況、食事の際の姿勢など、一人ひとりの状況に応じた事故防止に努めている。また事故が起こった際には報告書を作成し、どのような時に事故が起こりやすいのか話し合いをしている。	○	本人の状況に応じているが、事故に対する意識を高めるためにも、会議・勉強会の開催に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について会議等で話している。定期的な訓練は行えていないが、業務の中で緊急時を想定し指導を行っている。	○	定期的な訓練・勉強会の開催に取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を通じて緊急時、災害時の非難時の協力をお願いしている。	○	災害時の利用者が避難できる方法の習得、地域の協力を得られる働きかけに取り組んでいきたい。また取り組み方法を話し合っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時や近況報告時、計画更新時などに話をしている。どのようなリスクに結びつくのか具体的な説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の体調の変化について情報を共有し、医師への早期相談、指示をあおいでいる。	○	申し送り等で行っているが、経過的な継続の情報共有ができていないので、情報共有の方法の工夫に取り組んでいきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前、日付の確認を職員同士が確認を行い服薬の支援を行っている。薬の作用、用法については薬剤師より説明を受けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く飲んで頂いたり、散歩に出かけていただき、適度な運動を心がけている。便秘薬の服用については医師と相談しながら行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に口腔内清掃の声掛けをしている。自己にて出来ない方はこちらで義歯の清掃、歯磨きの介助をさせて頂いている。口腔内に異常が見られた場合は歯科医師の往診、受診を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量の把握を行い、その日の食欲の把握も行っている。食欲のない時などはおにぎりなどにして食べやすい工夫を行っている。個々に合った食事形態にさせて頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	洗剤を使った丁寧な手洗い、外出時のうがい、汚染物の消毒などをとりきめ、実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	乾燥機での熱処理をおこない、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の関係から、周囲から玄関の位置がわかりづらいためより工夫が必要である。案内の紙を貼ったり、明るい雰囲気になるよう努めている。	○	観葉植物を置いたり、家庭のような玄関の雰囲気に出来るよう、職員、家族様の意見を取り入れながら実行していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れた飾りを取り入れ、工夫している。	○	充分ではないので、生活感や季節感を取り入れた工夫をふやすように取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥のベンチや、和室などがある。テーブルの配置の工夫や気の合う方同士の席の配置なども行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が動きやすい家具の配置、馴染みのあるものを居室に持ち込んで頂き、その人らしい居室作りに努めている。畳を希望され場合にも対応できるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温、湿度に十分注意し、温度差が大きくならないように心がけている。定期的に換気を行い、空気の入替えを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなく押し車などを使用される方も障害なく過ごせるようになっている。また廊下、トイレ、浴室には手すりが設置されており安心して使用していただけるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりに適した声掛け、説明に心がけている。個々のわかる力を把握し、その方の精神的状況も考えながらケアさせて頂いている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前のスペースを使い、天気の良い時などはお茶を飲んだりしていただいている。ベランダには職員と一緒に出ていただき洗濯物を干していただいている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者の ☐ ②利用者の2/3くらいの ☐ ③利用者の1/3くらいの ☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	☐ ①毎日ある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	☐ ①ほぼ全ての家族と ☐ ②家族の2/3くらいと ☐ ③家族の1/3くらいと ☐ ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居様が日常生活の中で充実感を持って生活していただけるかを考えながら日々努力しております。個々の生活リズムを尊重しながら行っています。このユニット（うぐいす）では入居者様同士が仲がよくお互いの居室を行き来する風景がよく見られます。そんな関係を大切にしていきたいと思っています。入居者様と職員との信頼関係をより深め、より良い日常生活を送っていただけるよう努めていきたいと思っています。